

令和5（2023）年度 第1回柏崎市環境審議会 議事概要

市民生活部環境課環境政策係

このことについて、以下のとおり報告します。

- 日時 令和5（2023）年10月25日（水）午前10時～午前11時44分
- 会場 クリーンセンターかしわざき 1階 大会議室
- 出席者
 - 委員 伊藤会長、阿部副会長、田村委員、佐藤委員、小柴委員、新沢委員、宮田委員、梅田委員、春川委員、今井委員（欠席委員4名：蒼原委員、石塚委員、鴨下委員、品田委員）
 - 事務局 小黒市民生活部長
（環境課）若月課長、今井課長代理、佐藤係長、米山係長、江部係長、藤田係長、小川主査、猪狩主事
- 議事概要

	<p>1 開 会</p> <p>2 審議会会長あいさつ 本日の議事は3つ、委員の皆様からは忌憚のない意見をいただきたい。</p> <p>3 新任委員・事務局紹介</p> <p>4 議 事 ＜報告事項＞ (1) 柏崎市環境基本計画第3次計画及び柏崎市地球温暖化対策実行計画 令和4（2022）年度報告について</p>
委 員	水素エネルギーは市民には分かりにくい。水素モビリティという言葉が聞き慣れないため、市民に分かりやすいよう記載してほしい。
事務局	水素で動く自動車を目指すが、水素の普及には至っていない。先行的に取り組むことは脱炭素社会構築の意味合いが大きく、新たな成長産業として取り組みたい。
委 員	EV、省エネエアコンの補助件数が増える傾向にあるが、条件があって、これに達したら終わりなのか。
事務局	電気自動車等の補助は、国の補助金に上乗せした制度のため、国の動向を見極め、普及の領域に達した時点で、市としての補助を改めて検討する。創エネ・省エネ機

	器購入も補助事業を加速させ制度拡充に努めたい。
委員	ごみ排出量の令和7（2025）年度の目標値（24,712 t）がどういった戦略で、この数値を目指すのか。
事務局	一人当たりの排出量を減らす目標を立て、人口将来推計を見据え算出した数値であるが、令和7（2025）年度が最終年度となるため、令和8（2026）年度以降に改めて見直す。
委員	ECO2 プロジェクト登録者が令和4（2022）年度末で1,706事業者と、前年度に比べ事業者が増えた。団体などに働き掛けた結果なのか、行政としてどのような取組をされたのか。
事務局	ECO2 プロジェクト参加登録を他の助成金や補助金加算の要件としたため、多くの事業者から登録があった。当プロジェクト事業を通じて、多くの事業者が環境行動に取り組みやすい制度としたい。
委員	1,706事業者は、市内全体のうち、どのくらいの事業者数を占め、これ以上に増える見込みはあるのか。
事務局	個人事業主もいるが、法人が1,000者、非法人が700者ぐらいで、100%に相当近い。このネットワークを生かして、ECO2 プロジェクトを通じた地球温暖化対策や環境意識の醸成に取り組みたい。
委員	石地ビーチクリーンデーを毎年夏に実施するが、参加者はECO2 プロジェクトのことを知らなかったため、趣旨を理解した上で、参加できるよう取り組んでほしい。
委員	最近、イノシシやシカによる被害が起きているが、捕獲したイノシシやシカをジビエ料理として、市内で有効活用する手段や数値を伺いたい。
事務局	令和4（2022）年度に145頭のイノシシやシカを捕獲したが、商業ベースに乗れる数字ではない。9月に夢の森公園とタイアップして、鹿の角を使ったアクセサリ製作やイノシシの肉を使ったピザを食すなど、ジビエの普及促進を行っていきたい。
委員	3Rに関する意識啓発の推進とあるが、色んな体験や学びを通じて、子ども達に伝えていくイベント等を行いたい時、環境活動の取組を発信するにはどこにつなげ

	ていけば良いのか。
事務局	3R や温暖化対策は地道な活動であるが、イベントとして企画のコラボができないかといった相談は環境課にお寄せいただき、一緒に考えていきたい。
委員	9月15日付けの県報道資料から、温室効果ガス排出量の令和3（2021）年度は県全体で50万トン増加（2,247万t-CO ₂ →2,297万t-CO ₂ ）している。柏崎市でも令和3（2021）年度以降、増加するかもしれないので、注視した方が良い。
委員	環境教育プログラム実施校は31校のうち5校であるが、もう少し伸びてほしい。学校向けに興味や関心が持てるプログラムを検討すれば、学校教育に取り入れてもらえると思う。プラスチック資源の分別は、他では進んでいるが、柏崎市では難しいのか。
事務局	国からプラスチック使用製品の新たな分別収集と再商品化の取組が示されたが、本市の今の体制では難しく、一番適した方法がないかを検討する。ごみ処理が生活の基盤を支えているだけに、市として資源化を進め、燃やすごみを減らすために取り組みたい。小学校の授業に取り入れてもらえるかどうかは課題認識である。
委員	有害物質ほかを含む、色々なプラスチックが混ざり、分別するにしても、プラスチック問題は難しい。異常気象の昨今、市庁舎を含め、冷房だけに頼らず、緑のカーテンに取り組むなど、エネルギーを減らす取組を進めてほしい。
事務局	市庁舎では、冷房やエネルギー使用量を抑えるための断熱構造などを取り入れ、比較的エネルギーを使わない設計とした。冬だけに限らず、夏も断熱性が進められており、できる範囲で取り組んでいきたい。
委員	総合体育館は地中熱を利用した冷暖房であるが、市役所は地中熱を使っていないのか。
事務局	使っている。
委員	使っていても暑かったのか。
事務局	空調は省エネによる運転で行うが、使っただけエネルギーは増える。どこまで利かせるか、限度をもって動かすことになる。
委員	資源の有効利用は、主にプラスチック、ビン、鉄くずなどを集めて再利用する場

	<p>合、売却されるのか。又は経費を掛けて業者に引き取ってもらうのか。併せて金額も教えてほしい。</p>
事務局	<p>令和4(2022)年度は、処理料として支払う委託費は25,363,819円、リサイクルの有価物として引き取られたものが30,161,917円であり、有価物として売却したものが多かった。</p>
委員	<p>おおよそこのくらい掛かっている、このくらいの収益があることが、資源の有効利用に取り組むポイントとなるので、市広報への掲載を今後検討してほしい。</p>
委員	<p>(2) 新ごみ処理場建設に係る進捗状況報告について</p> <p>現在、松波資源物リサイクルセンターの運営は、市内在住の障がい者の方の雇用の場として、有意義な事業であるため、閉鎖し解体した後も、雇用を継続してほしい。</p>
事務局	<p>ごみ処理場の建設に伴って、リサイクルセンターを一旦壊さなければならない。これだけ今利用者があるので、リサイクルとして重要性の高い施設であるという認識のもと、今後検討する。</p>
委員	<p>処理能力にもよるが、新しくなると焼却灰の量が減ると思う。令和10(2028)年度の最終処分場の埋立量が74%であるが、これ以降、どのような状況になるのか。延命がどのくらいされるのか。</p>
事務局	<p>最終処分場の延命化が必要であり、焼却灰のリサイクルを進め、具体的な手法を検討する。ごみ処理場の計画が決まった時点で、灰の発生量を見据えて、改めて数字の根拠を示したい。</p>
委員	<p>全て埋まってしまった後の跡地利用の考えはあるのか。</p>
事務局	<p>最終処分場は、埋立物の安定化が確認されないと閉鎖できない。今の時点では、最終処分場の跡地利用の見通しは立てられない。</p>
	<p>(3) 佐藤池資源物リサイクルステーションの運用状況報告について</p> <p>意見なし</p>
	<p>5 その他</p> <p>意見なし</p>

6 市民生活部長あいさつ

持続可能な社会の実現に向けて、重要度が増すのが市民の行動変容である。自らが課題に気づき、その課題を解決する新しい行動に取り組むという概念であるが、本市には、環境に関し、日頃から一生懸命に取り組んでおられる方は本当に多いと感じている。脱炭素施策では、行動変容を促す取組を積極的に進めることが必要だが、何をやればいいのかに気付いていただく意味では、今頑張っておられる方々に光を当てるという視点も重要。是非、普及啓発にもお力添えをいただきたい。

7 閉会

以上